

野鳥と対等につき合うために

北の国からやって来た冬鳥が顎をそろえ、日本で繁殖している留鳥とともに、冬越しに入りました。池や湿地のカモ類をはじめ、林や草原に集まって、日だまりにエサを求めるトリたちの姿——冬は案外、野鳥が見やすい季節だといえるでしょう。

とはいものの、野鳥に親しみ、野生の自然にふれようとするとき、日本の野鳥はあまり人に人をこわがります。むかしから日本人が野鳥に対してとりづけってきた「つきあい方」に原因があるのですが、とにかく、逃げ足ははやいようです。

この、逃げ足のはやい野鳥たちと、どうしたら対等のつき合いができるか。彼らの自然のままの姿を見ることができて、その結果、野鳥について今までと違った認識を得たり、野生の自然について正しい知識を身につけることができるのであるならば、「庭に来る野鳥にエサを与えること」が、すぐには野鳥保護につながるとはいえないものの、野鳥と身近につきあう方法としては、いまのところ、これに優るものはないかも知りません。

実をたくさんつける樹木を植えたり、野鳥たちがよく食べる種のなる草を植える、といったこと以外で、パンイズとか臘脂などの、いわゆる人工餌を与える場合は、野外に自然の少ない、冬の期間だけに限って行ないたいものです。野鳥はもともと、春から夏にかけての、野外に自然のエサの豊富な季節には、人工的なエサにはあまり寄って来なくなるのがふつうなのですから——。



ヒトの心にトリの保護区を

財団法人 日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作しています。

トリからのメッセージ ⑦

冬ごもりにいそがしいリス

54.11A-SA08



冬を越すトリたちと
私たちがつき合うために